

書籍紹介 「絶対悲観主義」

話題の書籍のご紹介。

「絶対悲観主義」楠木 建著、講談社発行。

この本は、日立 Web マガジン「Executive Foresight Online」で連載された“楠木建の「EFO ビジネスレビュー」”(2018年8月20日～2022年4月25日)を加筆再構成したものだ。



講談社のサイトには、このような紹介がある。

『みなさん、がんばりすぎていませんか？』

そんなに心配することはありません。なぜなら、こと仕事で自分の思い通りになることは、ほとんどないから。

この身も蓋もない「真実」を直視して、成功の呪縛からもっと自由になろう。

そうすれば目の前の仕事に対し、もっと気楽に、淡々とやり続けることができる。

厳しいようで緩い、緩いようで厳しい、でも根本において割と緩いー、

絶対悲観主義者の著者が実践してきた「GRIT無用、レジリエンス不要」の仕事の哲学。』

構成はこうになっている。

- 1 絶対悲観主義
- 2 幸福の条件
- 3 健康と平和
- 4 お金と時間
- 5 自己認識
- 6 チーム力
- 7 友達
- 8 オーラの正体
- 9 「なり」と「ふり」
- 10 リモートワーク
- 11 失敗
- 12 痺れる名言
- 13 発表
- 14 初老の老後

私は著者と年齢も近く、なるほどなあ、とうなずくことが多い本であった。

多くのビジネス書やハウツー本とはまったく違うものである。

「へえ」とか「ああ、そうかもしれないなあ」「そういう考え方もあるんだ」というくらいかもしれない。でも、その「くらいかもしれない」というのは意外と大事だ。

こうしなきゃいけない。こうすれば良い。その通りにしなきゃ。そこに囚われすぎると前に進まない。

時には気楽というのも大事なんだよ、というエッセーだ。

(HAL 財団 上野貴之)

PDF 版

本記事 URL: <https://www.hal.or.jp/column/1269>